



絆の草中

17

草野中学校だより

発行責任者 校長 丹野 英雄

第17号 令和3年8月26日発行

夏休み中、県内でも7月末から新型コロナウイルスの1日あたり新規感染者数が80人以上となる日が続き、8月11日には過去最多の230人となりました。しかも、その半数以上が、いわき市で確認される日もあるなど、危機的な状況となっていました。そのため、福島県の要請を受け、国は「まん延防止等重点措置」を本県にも発令し、期間途中で9月12日までの延長を決定しました。

その措置を受けて、駅伝や合唱など一部の活動を除き、市内一斉に部活動を停止することとなりました。新型コロナウイルスは、デルタ株への置き換わりが進み、感染力が一層強まっているため、感染拡大を防ぐ上で、やむを得ない措置だったと思います。

そして、8月25日から第2学期がスタートしましたが、8月末までは市内すべての公立小中学校は3校時で授業を終了し、一斉に下校することに統一されています。今後の感染状況によっては、他にも様々な制限が生じることが予想されますが、「制限があるから我慢する」というネガティブな発想でなく、「制限があっても、やれることを工夫し、主体性を発揮する」というポジティブな発想で教育活動を推進していきたいと思っています。

2学期は、生徒が主体となって活動する場面を意図的に数多く設定してあります。『草中祭』をはじめ3年生の修学旅行など、生徒自らが企画・運営に携わり、喜びややりがいを感じる経験を通して積極性や主体性を育てていきたいと考えています。

なお、『草中祭』は、現在のところ10月22日を予定しており、昨年度と同じく、ご家族の方に限って、学年ごとに合唱コンクールのみをご覧ください計画しております。3年生の修学旅行は、9月14日から16日にかけて山梨方面で実施する計画でしたが、本県はもとより山梨県でも国から「まん延防止等重点措置」が発令されている状況のため、期日を10月27日から29日までの期間に変更して実施することにしました。

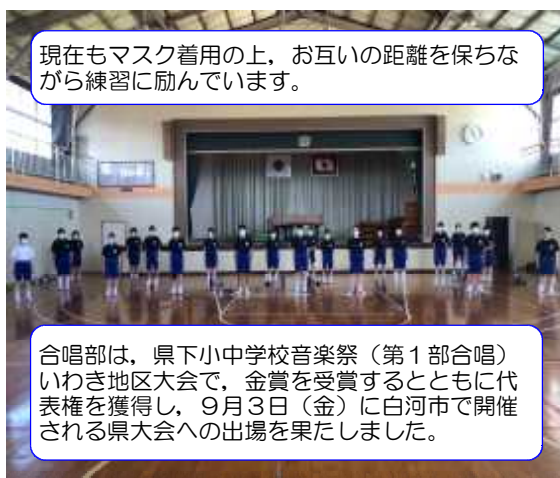
いずれの行事も生徒の主体性を育む上で重要な位置づけにあります。その実現に向けて、毎日の検温、手洗いや咳エチケット及び換気の励行、身体的な距離の確保、3密にならない学習形態の工夫等に努めて参ります。また、こんな時だからこそ、子供たちには「困難に耐える力」だけでなく、「困難な問題を打開する力」も身に付けてほしいと思います。本校の生徒たちには、そうした力を育める基盤が備わっているものと期待しています。



準剣道部は、男子団体戦において東北大会
準々決勝まで勝ち進みました。



市駅伝競走大会に向けて、走り
込みを続ける選手たち



現在もマスク着用の上、お互いの距離を保ちながら練習に励んでいます。

合唱部は、県下小中学校音楽祭（第1部合唱）
いわき地区大会で、金賞を受賞するとともに代
表権を獲得し、9月3日（金）に白河市で開催
される県大会への出場を果たしました。

困難な問題を打開する力を…子供たちに

心もほっこり 食を通した癒やしの力

「食べる」という営みを通じて、助けを求める人々を癒し続けた佐藤初女さんをご存じでしょうか。初女さんは、青森・岩木山麓の山荘に悩みや問題を抱えた人々を迎え入れ、その声にひたすら耳を傾けた女性です。「おいしいと感じた時に人は心の扉を開く」と、おむすびや山菜といったごく自然な家庭料理を作り共に食卓を囲んだそうです。

初女さんが「食を通した癒やしの力」を実感したのは10代の頃。結核を患っていた初女さんは、食べることで、「細胞が響き渡る」ように弱った体の隅々に力が行き渡るのを感じたのだそうです。小学校の教員を経て、戦後染め物教室を開いた頃からその人柄と手料理を慕って自宅に人が集い、自然に悩み相談を受けるようになっていったそうです。

どんな時も来る人を拒まない癒やしの場を作っていくと覚悟を決め、平成4年、岩木山麓に山荘「森のイスキア」を開設します。「イスキア」は、生きる目標を失った青年が豊かな自然の中で立ち直った伝説があるイタリアの島名から名付けたそうです。

どうにもならない重荷を感じた時、そこへ行けば自分を見つめ直し、再び現実へとかえることができる力を得る場所。心のふるさとでありたいという思いを込めた初女さん。「食べる」という人間が生きるための根本の営みを通して、「命とは何か」を伝え続けた人生だったようです。そうした初女さんが遺した温かい言葉を『いのちをおむすぶ』（集英社）から抜粋して紹介します。

ともに在ること

ともに食すことは、ともに在ること。どんなに言葉を尽くして話すより深いところで通じ合えます。

癒し

人の心はたいへん深いものだから、人に人は癒やせないと思うのです。癒やしとは自らの気づきによって心を解放したとき初めて得られるものでないでしょうか。

生きる姿

調理には生きる姿があらわれます。…中略…「忙しくて時間がない」と言う人もいますが、そうでなく、できないなりに“なにができるだろうか”と考えると、必ずなにかしら方法が見つかります。“やろう”と決めて始めてしまえばいいんです。

そーっと

「皮むき器でシャーッとむけば早いのに」と言われるけれど、にんじんも痛いんでないかと思うから、にんじんの姿にそって包丁でそーっとむくんです。

足もとに

なにかをしたいという思いに駆られると外へ外へと求めて、足もとのことがおろそかになりがちです。いちばん大切なものは、実は身近にあります。

ちょっとお休み

人間関係で行き詰まったときや進もうとしても進んでいけないときは、心を騒がせず、しばしそこにとどまって休みます。煮物と一緒にです。時間を置くと味がじんわりふくまれておいしくなりますでしょ。

食べるってこと

おいしいって言えば一言ですけどおいしさの中に、これ親切に作ってくれた、私のために作ってくれたとか、いろんなこと考えておいしいねってなる。食べながらおいしいって感じた時に、私は心の扉が開くって。本当に食べるってこと私はストレートに伝わるものだと思って、大事にしている。



【教育目標】

自ら学び、考え、正しく判断できる生徒
絆を大切に、思いやりを持って行動できる生徒
進んで運動し、心身ともに健康な生徒



〒970-0101

福島県いわき市平下神谷字宿25番地

TEL 0246-34-2208 FAX 0246-34-2771

E-mail : kusano-jh@city.iwaki.lg.jp